

第2回福岡県生物多様性戦略専門委員会（議事要旨）

1 開催概要

日時：令和3年7月30日（金）13時30分～16時30分

場所：福岡県粕屋総合庁舎 大会議室

出席：朝廣和夫委員長、岩熊志保委員、宇根豊委員、上村真仁委員、須田隆一委員、皆川明子委員（五十音順）

2 議題

- (1) 会議の公開について
- (2) 次期福岡県生物多様性戦略の計画期間について
- (3) 冊子構成（案）について
- (4) 第2章「生物多様性の現状と課題」（素案）について
- (5) 第2期行動計画の実施状況と評価（案）について
- (6) 次期行動目標の検討
- (7) 県政モニター、自然環境保全団体へのアンケート（案）
- (8) 福岡県生物多様性戦略の改定スケジュール（案）

3 議事概要（○＝委員発言、●＝事務局発言）

- (1) 会議の公開について
（事務局から説明）
●資料1及び資料2に沿って説明
（委員質問・意見）
○なし
- (2) 次期福岡県生物多様性戦略の計画期間について
（事務局から説明）
●資料3に沿って説明
（委員質問・意見）
○なし
- (3) 冊子構成（案）について
（事務局から説明）
●資料4に沿って説明
（委員質問・意見）
○なし

(4) 第2章「生物多様性の現状と課題」について

(事務局から説明)

- 資料5に沿って説明

(委員質問・意見)

○先ほどの資料4については、第2章1(4)に「福岡県の自然が育んだ文化」が入るということでよいか。

- 追記する。

○できるだけ生きものの立場に立つ、生きものに寄り添う、同じところに立って生きものと目を交わして、そして一緒に生きていく、暮らしていくという視点が大事。農地においてはどれくらい危機が進行しているのか、もう少し具体的に突っ込まなければ、心には響かないし、市民も危機感を抱かない。

○耕作放棄地のデータを取るなら遊休農地のデータも取ってほしい。

○自然林への誘導はすごく大事だが、照葉樹林であればいいみたいなイメージで街の人たちは見ているところがあるので、その点も、もう少し突っ込んで表現してほしい。

○縄文時代の書き方があっさりし過ぎている。最近の説で一番早い農耕は1万3千年前に始まったというのが、定説とまでは言い難いが、ほとんど稲以外のものは縄文時代と言われている。生物多様性、つまり生きものに対するまなざし、生きもの同士、生きものと一緒に暮らしていく、生きていくという感性というのは相当古いものであるから、もう少し縄文時代における農耕の開始を強調して、生きものとの関わりを少し強めに書いてもらいたいと思う。

○今日の委員会では時間があまり取れないので、各論については、各委員にヒアリングをするなどして、補強する方がよいと思う。また、自然環境課で実施している英彦山での生態系維持回復事業などの記述もないので、自然環境課にもヒアリングして補強する必要があると思う。

○文化の「祭り」の記述では、流域全体のつながりがあるような祭りについても、空間とネットワークという観点から示す必要がある。また、外来種はかなり重要な課題になってきている。公園の整備や都市の生態系のところでは、市民にとってもう少し身近な問題を取りあげると、心に訴えるものがあると思う。

○民間の動きとしては、一部上場の企業は、自然再生の取組をしていかないと、来年から基準から外れるそうで、企業の取組がこれまで以上に進むという機運にある。企業は自然再生の取組などを探しており、こうした企業との連携は必要になってくるので、そこもしっかりと書き込んでいただければと思う。

- 食文化の記述が入ることで、暮らしとの関わりということも含めて、人間が関わりながら生物が豊かになってここまで来たということがメッセージとして伝わりやすくなった。長く受け継いでいくための持続可能足らしめる知恵や慣習として、産卵の時期はとらない、旬の時期に利用するとか、自然のサイクルの中で持続可能に使っていくという考え方があったと思うので、前段のところに記述があると、現代人への問いかけにつながると思う。
- 伝統的文化だけでなく、新しい文化もある。例えば、全国では生物多様性に配慮した農業、生きものマークなどの取組が行われているが、福岡でまだないのであれば、他地域の取組との対比とか、萌芽的なものでも注目しておくことも必要かと思う。先日、土用の丑の日にウナギは絶滅危惧種だから養殖ドジョウに切り替えて食べてみようという取組も行われていた。生物多様性保全に配慮した新しい活動についても着目してはどうかと思う。
- お祭りのところで「放生会」の記述があるが、生物多様性戦略の観点からは、なぜ生きものを放生するのか、なぜ祭りにまでしているのか、そこまで突っ込んで、生きものの命を人間がどう捉えているかなどを書いた方がいいと思う。祭りの説明よりも、祭りの一番深いところにある生きものに焦点を絞って書くと、もっとここが輝く気がする。
- 14 ページ、2000 年以降の豪雨の部分。線状降水帯という言葉が 2012 年 7 月九州北部豪雨、その 2 年後の広島の水害でよく使われるようになった。特に福岡に関しては特徴的な事象であり、今後も想定されるものであるため、しっかり触れていただきたい。
- 24 ページ、文化的景観だとか世界遺産、棚田百選、農業遺産など、そういう県が関係している指定関連のもの。新しい項目は加えなくてもいいかもしれないが、できるだけ触れていただきたい。そういう地域指定制度と連携して生物多様性を強めていくというのが、他部局との連携の観点からも結構重要ではないかと思っている。
- 次期国家戦略ではおそらく NbS が入ってくる。九州北部豪雨の話もあったが、結局山の管理の問題が大きい。生物多様性も併せながら、どういものが植林されているかで、大分滑り方も違ってくるので、災害と生態系管理との関係みたいなことも少し意識するといいかと思う。

(5) 第 2 期行動計画の実施状況と評価（案）について

(事務局から説明)

- 資料 6 及び資料 7 に沿って説明

(委員質問・意見)

- たった今思いついた意見で申し訳ないが、最終的には2050年を目標にすると。この数値目標は2022年が目標になっている。全部の項目は要らないが、2050年も1行作って入れたらどうか。あるいは、2050年だけの項目があってもいいと思う。当面は無理だが2050年にはこれを達成するという。せっかく2050年を目標とするなら大きな夢を出してみるのも必要ではないか。
- 数値ではないが、戦略の第3章「目指す社会」では、2050年の目指す社会のイメージを記述する予定である。本日の議題である目標の検討と前後するが、これについては次回委員会で御検討をお願いしたい。
- 資料6の1ページ、環境教育について、最近副読本があまり活用されていないとの意見もある。動画やアニメーションだとすごく普及するというようなことも。環境省では、広域アクションプランということで、防災と環境をミックスさせたような、生物多様性の保全みたいなものを含んで、これから国や県・市町村でも策定していきましようと言っている。ここには副読本しか書かれていないので、動画みたいなものをコンテンツとして持っておくのもいいのではないか。
- 里地里山がここに出てくるが、先ほどの第2章にも農地生態系とか森林生態系のところでは里地里山が言葉として全然出てこなかった。ここで出てくるということは、やっぱり言葉としては両方の生態系に含めておくべきかと思う。
- 里山と里地を分けてもいいかもしれない。森林生態系に里山、農地生態系のほうに里地、課題は大分網羅されているとは思いますが、第3章との絡みで、実施状況の評価との関係含めて、一度流れを確認したほうがよいと思う。

(6) 次期行動目標の検討について

(事務局から説明)

- 資料8及び資料9に沿って説明
- 目標検討に関する委員長資料を配付

(委員質問・意見)

- 行動目標が4つあり、中項目・小項目が対応している。短期目標としては、各行動目標について2つくらいの短期目標が入るといいかと思う。今から自由にディスカッションしたいのだが、いただいた御意見を踏まえて、目標を具体的に文言として入れて強調していったらどうかと考えている。より具体的にイメージしやすい文言を設定するというのも一つ重要なやり方ではないかと思う。

=行動目標1について=

- 文化からそれを生み出していく精神的な世界まで下りていって生物多様性をどう表現できるかというのが大事だと思う。もったきちんと生物多様性の価値を受け止めないといけない時代になっているのだから、社会全体のあり方のところで、そういう狭い産業観みたいなものから脱却していくことをきちんと記述してはどうか。それで、この行動目標1のところをもっと充実させていくという案には大賛成。
- より具体的に身近な生きものを学び、それを表現していく、そういうところが特に大事だと思う。私たちはアートの活動で、被災地で半農半芸みたいな活動をやろうとしているが、学ぶことと表現することが決定的に欠けているという認識はある。私たちは私たちがやるが、県の施策としてどうかという。
- 行動目標1「私たちの暮らしのなかで生物多様性を育みます」は、最初に戦略を作る時にあえて入れたもの。他県の戦略では、生物多様性の保全、持続可能な利用、そして、基盤とネットワークという3本立てが多いが、もっと一人ひとりが身近なところで生きものを感じるといった観点で「暮らしのなかで」としたので、行動目標1は、福岡県らしさが出るような形でまとめていくのが望ましいと思う。
- また、最初の戦略では、生物資源、あるいは生態系サービスといった言葉をあえて使わなかった。今度のポスト2020年目標やIPBESの報告書にも、生態系サービスは西洋的な考え方ということからあまり使用されずに、自然がもたらすもの、または自然の寄与という言葉が使われている。それを考えると、福岡県戦略は最先端であったと思うので、やはりそういう「自然がもたらすもの」という概念を大切にしたい。
- 普段、子どもたちに接しているが、今は生きものが身近ではなくなっていて、本当に危機感を持っている。教科書とかには身近な生きものという单元があるが、全然身近な生きものを扱わない。この点が目標を作っていく上で本当に悩むところ。
- このような行政計画としての戦略では、教育、学習などの言葉が先に出るが、今の話を聞いて、楽しむという視点も必要と思った。
- 昔は仕事場というか、山の仕事、野良の仕事があって、そこで子どもたちも遊んでいたが、今は山にも入れず遊びと仕事場が乖離している。例えば、レクリエーションとか教育という形で置き換えられていっている。一つはレクリエーションだとか教育だとか、そういうようなところの強化も大事で、そこで生きものと触れ合うという方向性と、もう一つは、もう少し仕事と遊びの連携というか、本来の日本の伝統的な関わり方をいかに再生していくかということのも結構重要だと思う。

- ほとんどの百姓は心で稲と話をしている。それは相手が生きものだから。稲だけでなく、カエルとも目が合ったら、心の中や体の中で会話をしている。単なるアニミズムと以前は片づけられていたが、最近では、それは人類が進化の過程で獲得した能力だと。百姓がなぜ話をするのかというと、話さないと寂しいというか、冷たいというか、話すことが楽しいからだ。子どもたちも特に生きものとか捕まえたら何か話しかけている。生きものと会話する、話しかけるっていうのはすごく大事な我々の能力、習慣、伝統ではないか。どんな生きものでもいい、極端に年に1回でも話をするみたいな切り口っていうのが本当は今からは大事で、今まで当たり前過ぎてあまり評価されなかったことを再評価していく。そういうことを取り込んでいけるといいと思う。
- 大人が変わらないと変わらないのではないかと思う。機会を設ければ子どもは楽しく自然の中で体験したりするが、家に帰ったときに親がそれに関心持ったり褒めたり共感したりしないと続かないと思う。子どもに知識として正しく伝えなければいけないと思うし、体験も必要であるが、それが大人になっていく過程でそぎ落とされていくこともある。だから、大人になってもできるような環境、フィールドやプログラムがあったらいいと思う。先ほど、企業も生物多様性に関心があるという話があった。コロナの影響でワーケーションやキャンプが流行っているので、自然の中で企業が研修を兼ねて、目いっぱい遊ぶことが生物多様性の保全に貢献している企業であるとか、そういうものを効果として検証していけば、もっと一個人として自然に親しめることが、実は生物多様性を、むしろ最先端なライフスタイルを実現している、そういう仕組みができるといいなと思うので、そういう方向にドライブがかかるような目標設定ができたらいいと思う。
- 2050年、子どもが最低のルールを守れば自由に入っていい田んぼ、福岡県100%という目標を定めるとか。
- 行動目標1に関しては、何か新たな生きものとの関係づくりとか場づくりとか、遊び場、そういうのも進めるといった御意見が出たのではないかと思う。この関係づくりというのは、今後大きなキーワードになるのではないかと思う。

=行動目標2について=

- 例えば、希少種に関しては県にデータがあるわけだから、例えば、絶滅危惧種が3種類以上いる田んぼ、畑、川、ため池、里山とかいう格好で認定をするとか。例えば、有機農業や有機JASで、一応認定をしている。生きものを認定する、生きものになりかわって県が認定をするみたいな認定制度とかをモデル的につくるみたいなことをやらないとなか

なか前に進まないような気がする。

- 中山間地払い制度で、絶滅危惧種がいたらプラスアルファとか、棚田百選だったら10倍ぐらい直払いにするとかしないと、星野の棚田などは残っていけない気がする。お金の話は別にしても、希少種を残していくためにもそういうところをより増やしていく、みんなで守っていくみたいな取組はいいと思う。今の既存の事業でそういうふうにより展開できるものがあるかというところも。
- 行動目標1に入るかもしれないが、先ほどの評価では県民参加型生きもの調査が広がっていないということであったが、そこと連携して、絶滅危惧種とか生きもの調査をあらゆる畑とかでやってもらって何種類以上見つかったら、表彰するようにすると、両方、それがうまく連携しながら促進されるかと思う。
- 1種も絶滅させないとか。多自然川づくりといっても、やっていないところもたくさんある。SDGsに「1人も取り残さない」がある。希少種だけではなく、行動目標の1にもつながってくると思うし、そういう具体的な言葉は必要だと思う。
- 私が思うには、活動の多様性、生きもの多様性はかなりリンクしている。例えば、森林環境税は間伐すればオーケーみたいなところがあるが、本当にそうか、それで多様な森ができるのか。確かに林床は生えるかもしれないけど、森づくり、人の関わり多様性とか、プロダクトとかサービスの多様性は全く出てこないと思う。それは、行政の限界だと思っていて、多様な森づくりは、本当はNPOや県民の役割だと思うが、県からのメッセージとしては、県はこの部分をやるけれども、県民の皆さんはぜひ多様な森づくり、多様な農業、多様な自然との関わりをぜひ目指してくださいというメッセージが必要だと思う。できればそれを支える仕組み、そういう施策をつくっていただきたい。
- この目標のたたき台として文言には入らないかもしれないが、ここは県の自然環境課が主体となる部分になるが、全部、自然環境課だけでできるものではないから、先ほどの県民参加型調査の話のように、「県民とともに」という視点があると本当の保全に結びつく気がする。
- 目標というのは、県民ももちろん目指していかなくてはいけなくて、いろいろなアプローチがあると思うが、そこが伝わるのかなというところもある。
- 数値目標と絡んでくるところもあるが、そこは整理できるのではないか。数値目標はこうだけど、メッセージとしてはもうちょっと広く言葉を足すなど。
- 「誰が」という点だが、行動目標の1であれば、私たちが入っているので、「私たちも」と思えるが、行動目標の2を見ると「図ります」と書か

れ、公共事業のことも書いてあるので、「これはやってくれる」のだなと思ってしまう。主体が誰なのか、主体形成というのが重要で、みんなが主体でやらないといけないということが分かるようにした方がよいのではないか。漫画でもイラストでも何でもいいと思うが、自分のことだと自覚してもらえそうな示し方がないか。あとは、どうマネジメントしていくかということ。計画など実際に運用、普及・啓発するための、実行するためのマネジメント体制は組立てられたりしているのか。

- 庁内の取組のマネジメントという意味では、関係課をメンバーとする庁内推進会議を設置し、取組状況の確認や情報共有を行っている。地域においては、県内6つの保健福祉環境事務所ごとに地域環境協議会を設け、環境保全活動等を推進している。
- 行動計画のまとめ方になると思うが、県によっては計画ごとに行政の取組、事業者の取組、県民の取組がまとめられ、誰がどこを担うべきか示されている。そういったことが今回どのくらい反映できるか分からないけれども、事務局としても検討をお願いしたい。
- 今、主体ごとにどう関わることが見えないという話だと思うが、短期目標にそれを落とし込むとか。
- 細かく書きすぎると読まなくなるので。絵とか。
- 短期目標に書いて、数値目標が連動してくるので、むしろした方が進むのかなと思ったので。
- なるほど。でも、見やすさもあると思う。
- 例えば、「私たちの暮らし」と言っているので、1番目の短期目標は県民目線で書くこともできるのかなと。2番目は、全部関わってくるが、公共事業中心でやるとか、3番目は民間に重点を置くとか、そんな大胆に整理していいのか分からないが、そういう落とし込み方も、もしかしたらできるかもしれないと思う。
- 私は、保全も再生も生物多様性の将来像を明確化して事業に取り込むとか。災害後の河川の復旧にしても、やっぱり森づくりがどうかというのがないと、本当にEco-DRRの河川づくりができるのかということになりかねない。いずれにしても生物多様性の将来像をどうセットすべきか、それを照葉樹林にするのかどうするのかとか、別の事業にも関わってくるので、そういうメッセージは大事かと思う。

=行動目標3について=

- 地域景観とあるが、景観は個別で出したほうがいいのかと思う。広域的な生態、景域というか景観、生態系の多様性というか、言葉として重要なキーワードになるのではないかと思う。

- 2006～2008年、県内12地区で田んぼの生きもの調査を年間3回実施した。それによって田んぼの生物多様性を明らかにしていくもので、全国に先駆けて生物多様性を取り上げたということでも注目された事業であった。当初の方針では、いわゆる生きもの、昆虫、魚から植物、最後は風景へと進める予定であり、農業の多面的機能、価値を明確に県民に発信していこうという事業であったが、農水省が別の事業を始めたので終了した経緯がある。もともと福岡県は、そういう生物多様性農業というものを大きな柱にしていこうという戦略を立てた時期もあった。私はあの事業を引き継いでもう1回やるべきではないかと思っている。そして、最後は風景に行くべきだと。そうなってくると、アートにもなるだろうし、もっといろんな展開ができるだろう。それによって福岡県は生物多様性を土台にして、美しい県土、美しい環境、自然なんだというところを持っていく。2050年にはそういったところまで構想を描いてほしいと思う。
- 今がチャンスだと思う。SDGsのウエディングケーキの一番下が生態系だということからしても、今、戦略的なものが進めやすい時期にきていると思う。
- 風土千年、風景百年という言葉がある。風土と風景に基づく生物多様性というか、そういうものを育む農林水産業を目指していただくと、風土と風景との関係、生物多様性との関係、それから、自らの生業を考えていく、そういうスケール感というか、風土のスケールと、営みのスケールを相対化していくみたいな、まずそういうところの目標ができるといいかなと思う。欧米では景観区域ができて、ガイドラインができて、それが仕組みとして動くようになっているが、日本は遅れている。まずは風景というのは人レベルの感じ方の話なので、景観ではなくて風景という言葉を使っていくのは一つあるのかと思う。

=行動目標4について=

- 私は、外せないのは都市の相互連携だと思う。中山間地の人口減少はますます進み、農家の息子はみんな、近くには住んでいるが町に出て仕事しているので町の人が農村を支えている。地域コミュニティを支えとか、お祭りを支えとか、いろいろなものがあると思うが、そういう活動が災害時のボランティアにつながるので、都市のネットワークを生物多様性のキーワードにどう今後構築していくかというか、県土のレジリエンスには徹底的に大事になるかと思う。災害はますますひどくなるので、人的ネットワークの構築が要(かなめ)になる。平時から災害といっても意識しにくいので、生きものを楽しむ取組を通じて、いざというときの準備をしていく。そういう意味でここは中核的なセクションではないかなと思う。

- 県もいろいろな取組を各部署でやってあるので、もう少し生物多様性というキーワードを入れて、活動をもっと増やしていくことが必要かと思う。あとは人材。生きものとの関係を伝えることができる人材やアドバイザー、そういう専門家の人たちとのネットワークをどうするかだと思う。
- アドバイザー制度もあるが、なかなか使いづらいし、変わっていかない。だから次に実際にこの目標に向かって動くというところを考えると、動きやすい目標のほうがいいのかと思う。いろんなネットワークがつながっていけるような仕組みづくりというところもすごく重要になってくるかと思う。
 - 今のネットワークというのに関連して、地域循環共生圏とか、流域圏という少しスケールの大きいところの部分で、行動目標4のところ、そのニュアンスが抜けているような感じがしたので、それをどこかに分かるようにしてはどうか。「連携促進によるネットワーク化」とは書いてあるが、地域循環共生圏のニュアンスとはちょっと違うので。言葉はどういうふうに表現するのか分からないが、何かそういうことがあると、行動目標4の構築につながるかなという感じがした。
 - 地域循環共生圏は重要な概念ということで、最初の「策定の視点」のところには書いてあるが、それをどう目標に落としていくかというのが定まっていない。行動目標のどこに位置づけるのかを考えていきたいので、意見があれば希望するところである。
 - アドバイザー制度が変わっていないという指摘があったが、確かにそのとおり。何か仕掛けやアイデアなどがあれば、後ほどでもいいので意見をいただくと、参考になると思う。
 - 例えば、生物多様性アドバイザー制度があるのだから、アドバイザーと連携する事業を増やして、公共事業や教育活動、地域災害復旧事業などの場面で専門家と連携するとか。生物多様性に配慮するために、県の事業の全てに連携する必要はなくて、そういう優良事例というか、そういうパイロット事業、モデル事業みたいなものを増やしていくことはできるのではないかと思う。森林環境税がありながら森林系でも特にモデル林的なものはない。そういう視点でちょっと短期目標として具体化し、ちょっと突っ込んだ形で書いていただくと、他部局にも検討していただける余地はあるのではないか。

(7) 県政モニター、自然環境保全団体へのアンケート（案）

（事務局から説明）

- 資料10及び資料11に沿って説明

(委員質問・意見)

- 項目に関することではないが、コロナの影響で、保全団体の活動が何もできていなくて、参加者等も減っていると聞く。別の会議でのことだが、その影響で統計が大分ゆがんだものが出てきていた。8月に実施するならば、その前提として、この1年ではなくてみたいな文言をうまく入れるとか、やめておいた方がいいかと思った。
- コロナ前を含めて聞くということで、そこは検討をお願いしたい。

(8) 福岡県生物多様性戦略の改定スケジュール (案)

(事務局から説明)

- 資料12に沿って説明

(委員質問・意見)

- なし

以上